

第4回 国立天文台光赤外専門委員会 議事録案

日時：2011年8月2日(火) 11時-15時15分(12-13時に昼食休憩)

場所：国立天文台(三鷹)大会議室

(ハワイ観測所、岡山観測所、大阪市大、神戸大、広島大、とTV会議接続)

[出席者]

*家正則、市川伸一、伊藤洋一(TV)、泉浦秀行(TV)、臼田知史(TV)、
神田展行(TV)、*郷田直輝、小宮山裕、*櫻井隆、佐藤文衛、*高見英樹(TV)、
竹田洋一、*田村元秀、長田哲也、*藤本眞克、松原英雄、山下卓也、
山田亨、吉田道利(TV)

[欠席者]

有本信雄、嶋作一大、*水本好彦

「*」印はEX Officio(陪席するプロジェクト長等)

最初に資料1に基づき3月に行われた第三回本委員会の議事録が確認された。

1. 報告

1-1. すばる望遠鏡の事故について

高見ハワイ観測所長代理から資料2に沿って、7月2日朝に起こった冷却水漏れの事故に関するいきさつとその後の復旧作業の進捗状況が報告された。原因については調査委員会を立ち上げて調査中。ナスミス焦点の機器で7月22日より共同利用観測は運用を再開したが、主焦点とカセグレン焦点の機器については復旧に数ヶ月程度かかる見通し。事故直後の観測所の対応は適当だったのか、次期公募の日程、キャンセルになった観測課題の取り扱い、などの点について意見交換があった。

1-2. すばる小委員会報告

欠席の有本すばる小委員会委員長の代理として、吉田委員から本年度(4月以降)これまで3回のすばる小委員会で議論されたことが資料3の議事録に沿って報告された。本年度の活動方針、進行中の装置計画(HSCやPFSなど)、FMOSを用いた戦略枠プロジェクトの審査経過(宇宙論に関するテーマの提案を2年40夜で仮採択し、S11B期に5夜割り当てた観測の結果を見て再審査)、など。

1-3. TMT をめぐる情勢について

家 TMT プロジェクト室長から、つい先日の TMT ボード会議の内容のまとめ（資料 4）に基づき、各パートナー機関の近況も含めて、TMT プロジェクトの進捗状況が報告された。次期の建設期に向けて TMT Collaborator Board（TMT 協力評議員会）という組織を設立することについての意向表明書（資料 5）を作成したので、パートナーの署名を依頼する。NSF についてはすぐには資金の見通しが得られないので、NSF の出資がない場合の分担節約プランを議論しているが、（新規メンバーの加盟がなければ）それでもコスト不足になる見通しなので一部を先送りにして建設開始することも検討中。協力評議員会に加わるメンバーの構成や、TMT 搭載装置開発状況とわが国の関わりについても意見交換があった。

1-4. TMT 推進小委員会報告

山田委員より、資料 6 に沿って、2011 年になってこれまでに三度開催された TMT 推進小委員会に関する報告があった。プロジェクト室の活動、計画の詳細内容、運用計画、装置開発、推進のための支援活動、など計画全般にわたる項目が議論されたとのこと。来年 2012 年春の天文学会で TMT 特別セッションを開催することを考えている。また観測装置の R&D 促進のための資金を工面するために共同研究経費に応募するなど具体案を練っている。

2. 議題

2-1. 次期すばる TAC 委員について

欠席の有本すばる小委員会（SAC）委員長の代理として、吉田委員から（光赤天連の推薦投票を参考にして）SAC で推薦された次期すばるプログラム小委員会（TAC）メンバー候補のリストが紹介され（資料 7）、以下の 10 名の候補がそのまま全員承認された。

石黒（ソウル大・新任）、佐藤（東工大・新任）、伊藤（神戸大・留任）、泉浦（NAOJ・新任）、長滝（京大・留任）、柏川（NAOJ・留任）、大内（東大・新任）、吉田（東大・新任）、長尾（京大・新任）、須藤（東大・新任）

今回は留任より新任のメンバーが多く、所属機関（大学）にやや偏りが見られたのでその点についての質疑応答があった。

2-2. TMT-J 計画評価委員会の設置について

家 TMT プロジェクト室長から資料 8 に基づき「国際共同プロジェクトである TMT 計画において現在各パートナーの役割分担と運用開始後の使用権利などについての協議が進められている現在、具体的な日本の分担に関する年次計画等について適切であるかどうか外部の率直な声を聞くことが重要になってくるので、『TMT-J 計画評価委員会』を新たに設置してユーザーコミュニティの代表や有識者による評価をお願いして助言をいただきたい」との提案があり、議論した結果、この評価委員会を設置することで承認された。来年 2012 年の早い時期での立ち上げが期待される。具体的な委員の人選については次回の委員会で行う予定。

3. その他

3-1. 学術会議中規模計画への光赤外分野からの応募について

光赤天連運営委員長でもある山田委員から、学術会議の天文学・宇宙物理学分科会から、天文学関係の各コミュニティに呼びかけられている中規模計画(総額 100 億円未満)について、これまでに光赤外関係では7つの計画から応募があったことが報告された。大きく分けて大学主体の望遠鏡計画と(すばる望遠鏡などの)次期観測装置・スペース計画に関するものの二つに分けられる。光赤天連としてはこれらの計画に対しては特に順位付けは行わずにそのままリストを提出する方針である。

3-2. 岡山観測所の近況

岡山観測所長の泉浦委員から岡山観測所の最近の状況が報告された。5年の大学間連携事業がスタートしたこと(突発天体のフォローアップ観測や地球規模ネットワークを利用した天体の時間変化の観測)、科研費が通って系外惑星検出観測の効率化を念頭に置いた188cm望遠鏡自動化に向けた改修を始めること、91cm望遠鏡広視野赤外カメラでのミラ型星観測による銀河構造研究はまず1K×1Kの検出器で今年末に観測を開始出来そうであること、など。(事後提出資料9も参照)

3-3. 次回の光赤外専門委員会について

次回の第5回光赤外専門委員会は本年11月を目処に開催する予定であり、具体的な日程はこれからメンバーの都合を勘案した上で決定する。

配付資料

1. 第3回光赤外専門委員会議事録案
 2. すばる望遠鏡：故障の状況と今後の計画
 3. すばる小委員会議事録
 4. TMT Board Meeting Report
 5. 意向表明書(30m望遠鏡天文台に関するグローバル連携)
 6. TMT小委員会報告(通算2～4回)
 7. 第7期すばる望遠鏡プログラム小委員会 委員候補者リスト
 8. TMT-J 評価委員会設置の由来
 9. 岡山観測所運営方針 [会議後提出資料]
-